

第5章 資料

1 東日本大震災に伴う復旧・復興事業について

問2 石巻の復旧・復興が遅れていると感じている主な事業は何ですか。

- ・バスが通らず不便。
- ・駅（気仙沼側）、線路、仙石線
- ・交通アクセスの抜本的整備がなされていない。
- ・下水道
- ・すべてが遅れている。
- ・1つを選べない。私は全体的に時間がかかるのは当たり前と思っている。
- ・石巻は範囲が広いので（時間がかかるのは）解ります。
- ・1人1人が自分で出来るように、何でも。
- ・いろいろ提案はあるが先が見えてこない。
- ・まだおばさん達が仮設で3年以上もせまい部屋で暮らしている事。道路もまだところどころがボコボコで運転しづらい所がたくさんあります。とにかくまだ震災の痛手がたくさんあります。考えると頭がおかしくなります。母を亡くした事がショックです。頑張ってます。
- ・一人淋しい。皆んなが集まって会話の出来る場所がほしい。
- ・仮設の名の付く保育所、支所、郵便局、駐在所が3年以上経っても仮設のまま。いつ出来るのかも不明
- ・老人の為のグループホーム、介護ほか
- ・旧市街地の復興、旧市内にスーパー等が少ない。
- ・橋の増設
- ・計画自体がわからない。
- ・石巻市の未来への方向が明確になっていない。
- ・個人住宅には目を向けてない。
- ・公営住宅の早期建設をお願いします。
- ・再開発への制約の緩和。
- ・三ツ股地区の基盤整備が遅れている。
- ・仕事をする人が少ない。
- ・市民プールなど遊べる場所。
- ・市民会館（文化施設）（旧町の施設では車がないので不便）
- ・大型市民会館が必要。外からの集客の為のイベントができるように。
- ・自力で復旧、復興できる方の意欲が低いと感じます。
- ・集団移転地の整備等居住に関する復興
- ・住宅最優先。公園に仮設だらけ。一日も早く仮設地が更地になれば人、土地、コミュニティ、安らぎが生まれる。
- ・人の少ないところはそのままである。
- ・数百年後と予想される震災対策より現在生きている人への対策を。
- ・石巻は無駄に広すぎ。
- ・全壊した場を災害危険区域として住宅を建てられないようにしてほしい。同じ場には住みたくない。市外移転を考えている。
- ・他の市町村と比較すると少し遅い気がします。（知人に東松島市と石巻の方がいまして、仮設住宅にどちらの方もお住まいですが、色々聞いていて石巻市は対応や様々な部分で遅いと感じました。
- ・町を離れると道路、岸壁全て遅れている。
- ・地区内に若者の数が極端に減少している状態が復興を妨げていると思われるので、そのための対策を興してほしい。
- ・町が流されているのに復旧するのに2～3年はかかる。
- ・避難する橋が道路（車専用とか歩道のみ）というのはおかしいと思う。橋に歩道をつけて、車も人も避難した方がよい。
- ・湊、渡波地区の高潮時の対策。高潮時の注意報を出すよりもそれ以前の対策を立てて、津波高潮を防ぐことに力を入れて欲しい。景色より住民の安全を凶ってください。
- ・湊、渡波地区はすべてにおいて遅れている。

問3 石巻市の将来の再生・発展のために望むまちづくりについてお聞かせください。

- ・仮設の方々の一刻も早い定住地・住まいの確保。
- ・たとえばバラ園とかゆり園など花のテーマパーク、ガーデンパークがあれば、集客が見込まれるのでは？
- ・今ある施設の再生化。
- ・若者が定住できる町づくり。
- ・安心して住める地域（原発の不安のない町）。
- ・障害者への自立支援の強化。
- ・何事も中途半端な規模だと、必ず後からつぎ足しの繰り返しで“セコイ”から周りより集客力が落ちる。やっぱり賛否両論あると思うけど、上に立つ人は思い切った策を講じないと。優しい気持ちも含めてです。
- ・市民プールなど総合体育施設。
- ・子どもたちが安心して遊べる広場、公園、グラウンド（ボールで遊べる）。
- ・仙石線・石巻線の複線化。仙台への直通電車。
- ・現在住んでいるところの充実。
- ・医療費削減に向けての努力。
- ・復興住宅の早急な整備。
- ・観光、石巻にまた来てみたい、おもてなしの場、物、人、石巻のアピールが下手
- ・かたよらない商業施設。
- ・働く人が増えれば人口が増えると思うので企業誘致。
- ・医療施設に行く交通の便が悪い事。
- ・公共交通機関以外に車社会に対応できる道路網や駐車場の整備。
- ・安全で安心できる防災対策等はどこまでのことを考えているのか？今の世界の情勢を見ていると間もなく戦争が始まりそうな様子で心配です。いざというときにどこまで対応できるのか考慮に入れておいてください。
- ・共働きできる環境づくり。
- ・工事でテトラポットばかりおかれて釣り場が減少したのでもっと安全な釣り場をたくさん作ってほしい。
- ・第一に住宅、第二に雇用。このことにより人口流出を防ぐ。
- ・蛇田地区の防災用貯水プール脇の堀の整備（大雨になると堀が満水になって浸水しそうになる）
- ・中高一貫校（小中一貫校）など特色あるまちづくり。
- ・市外なので町中はわからない現状です。
- ・安心して子育てできる環境（防犯）。子どもたちが安心、安全に遊べる児童館の設置。小学校から直接裏山へ避難道の設置。更地の早期活用。
- ・石巻市内に駐車場完備の道の駅があるとよい。
- ・県道等の整備。
- ・子どもたちの教育、きちんと義務を果たして権利を主張する道徳的なことを教えてあげたいと思います。子どもたちの将来のために。
- ・北上川や運河堤防に桜などを植えて回遊船を運行する。旧青果市場後にて地場産品販売（八戸の八食センター参考）。近くに船の発着場を作り中瀬～閘門～サンファン館～桃生などのルートを遊覧するもよし。
- ・安全な散歩道（年寄りが安心して楽しめる道）。
- ・無認可保育園（認可だと就業していないと入れない）
- ・水産農業の再生
- ・街路灯が河南地区は少ない。
- ・北上運河の水質浄化
- ・大きい事業になるが、町から街として、道路の整備モデルとなる！！→大手自動車メーカーと共に無人自動車？（運転不要）などしてみるのはいかがでしょうか？雇用と話題性を生めば、人が集まり、観光にもなるのではないかと。復興＝新しく生むことしかないと思う。
- ・現在の子供達達は自然を中心とした遊びが出来ていない（昆虫採集、自然とのふれあい）ので親子と一緒に遊べる自然公園
- ・行政側と市民との交流が第一。行政の改革
- ・石巻地区が夏に涼しい事を売りにできないか？食物も豊かで雪が少なく、台風もそれという地域の特徴を生かして集客できないか。企業誘致をすべきだと思う。
- ・中心部への投資は無駄です。
- ・地域経済で循環する産業

2 地域福祉について

問4 あなたのご近所とのお付き合いに最も近いもの

- ・震災で引越してきた為親しい付き合いはない。
- ・向こう三軒両隣
- ・あいさつだけ
- ・テレビが友達
- ・親しかった近所の人々が引越ししてさびしい。
- ・互いに電話し、安心しあい、茶呑み等も。
- ・入居者の方々とお付き合い。
- ・引越したばかりなのであまり知らない。
- ・話したり、野菜などの交換など
- ・気分が悪い！自分からあいさつしない人が多い。
- ・ほど良い距離

問5 今後のご近所とのお付き合いについて

- ・今までどおりで良い。
- ・そのまま親しく付き合い。
- ・大雪の時、隣家の若い夫婦が雪かきしてくれた。
- ・部落に住んでいたような付き合い方がしたいです。
- ・仕事と家事とで近所と付き合う暇がない。
- ・現状に満足している。
- ・人によってちがう。
- ・いざという時、何かあった時など支え合える状況をつくっておく。
- ・アパートなので日中在宅がない。
- ・「1（もっと親しく付き合っていきたい）」に○をしたいが、現在それができる環境？
- ・今までどおりで良い。
- ・親しくしたいが互いに外に仕事で出ている等、現実には難しい。参加できない。
- ・互いに助け合い交流続けて行く。
- ・地域の行事に参加程度。
- ・これまでの世代どおり。（12～13年間）
- ・普段は話をする程度でも、何かあれば話し合いたい。
- ・いつも行き来しているので今のままで良い。
- ・転入者（9名）で顔も知らない。
- ・後々は住む地域が変わるのでそれなりに。
- ・ほどほど親しく付き合えば良い。
- ・ケースバイケース
- ・集会所の活用がたりない。集まるようになれば参加したい。
- ・地域のスポーツ大会、運動会等を開催しコミュニケーションを図る。

問6-1 問6で「(日常生活での困りごとを相談できる人が)いる」を選択した方にお聞きします。それはどんな方ですか。

- ・親せき、兄弟姉妹、子ども
- ・子どもの同級生の母親
- ・職場の上司、同僚、仕事の仲間、同じ職業の人
- ・趣味の仲間、友達、以前より親しい友達、深く長い付き合いの友人
- ・ボランティア活動の仲間
- ・学生時代の先輩や後輩
- ・近所の友人、市内に住む友人
- ・ママ友
- ・からころステーション
- ・その都度、公的機関に相談します。
- ・その内容に詳しい人へ相談する。
- ・司法書士、行政書士、税理士、労務士等
- ・民生委員児童委員、行政委員、保健推進員に、必要なとき相談する。
- ・市会議員・県会議員
- ・弁護士
- ・商店主(買物に行った時)、店の従業員
- ・訪問看護師・薬剤師の方
- ・仮設のウソをつく人ではなく、親しくしている人たち。
- ・近隣2軒もなくなったので親しく相談する友がいません。
- ・誰とでも話をすること。
- ・町内の民生委員は声がけがたりない。

問7 地域に住んでいる何らかの支援を必要としている方への支援について

- ・「支援をしたいが何をすればいいのかわからない」と「余計なお世話になってしまうので支援はしない」を合わせた感じ。
- ・民間に委託すればいい。
- ・ヘルパーの仕事がしたい。
- ・個人情報保護の関係があり、地域内に困っている人がいるかどうかかわからない。
- ・相手が支援を必要と思っても言いたせないのが現実だと思う。
- ・仕事で地元にはいない。
- ・子育て中なのでできない。
- ・やりたいが年齢的に無理だと思う。
- ・市、地域が協力して支援してほしい。本当に支援を必要としている人に支援がない。
- ・支援の形が皆同じ、同じでなくたって(いいのではないか)の感もある。
- ・自助→共助→公助
- ・自分のことで精一杯
- ・足が悪いのでしたくてもできない。
- ・町内会単位でボランティアサークル活動のようなことを学生時代から行っていけたら良いのでは、と思う。今も出来るだけ参加してみたい。
- ・老人一人暮らしの地域マップが必要。災害時は特に。
- ・現在家族から支援してもらっている。
- ・ミニデサービスふきのとうのボランティアを継続している。
- ・脳梗塞になり、リハビリ支援をうけています。
- ・78歳で夫75歳の末期肺癌の介護をしているので余裕がない。
- ・自分は85才なので、余計な世話をかける。
- ・89才で、自分の事で精一杯

問9 あなたはどのような地域活動に参加していますか

- ・ゴミ集積所の清掃週2回
- ・カラオケ教室
- ・自治会・町内会の活動の、決められた事のみ実行している。
- ・スポーツ少年野球チーム
- ・ボランティアの弁当作り
- ・音楽体操
- ・会社での地域清掃
- ・交通安全協会役員、約25年。
- ・高齢者が集える場所、公民館での学習会
- ・昨年まで町内会副会長。現在は無し。
- ・市や県の剣道連盟関係の活動
- ・支援センター
- ・蛇田公民館明笑大学運営委員
- ・集会所でお茶のみ
- ・小学校へ読み聞かせ
- ・消防団
- ・吹奏楽団：石巻SWE
- ・石巻市以外のボランティア活動・8年になります。
- ・石巻市環境保全リーダーとして参加出来る活動に参加しています。
- ・石巻専修大学開放講座県民大学
- ・全て参加してる。
- ・創価学会の活動
- ・増えた花を近所に植えてやる
- ・地域で納税組合をつくっているの、組合員同士の付き合い、活動もあります。
- ・地域のボランティア活動
- ・婦人会
- ・文化団体
- ・民生委員
- ・趣味のサークル（短歌）
- ・いろいろの活動がなくなっています。
- ・高齢のため、あまり考えた事がない。
- ・借家のせいか、地域活動の事などわからない
- ・みなし仮設なので各部屋の人もわからない。
- ・引越してまだ数年です、参加していません。被災者です。
- ・介護のため自由な時間が持てない。
- ・漁船に乗っているため時間が取れない。
- ・協力したい気持ちはあるが、体調に自信がない。
- ・後期高齢につき、地域活動は不可能。
- ・高齢になり、今は参加していない。
- ・参加したいが年齢、体調により参加はむずかしい。
- ・高齢のため、一人での外出は無理。
- ・腰が悪くて参加できない。
- ・仕事の都合でなかなか参加できない
- ・仕事と孫2人（7才と4才）で時間がとれない。
- ・思いはあるが行くことができる状態ではない。
- ・手芸等を習いたいが、家事で今はいっぱいです。
- ・障害のため何もしていない。
- ・親は参加しているが私自身は（独身）参加できない。親から話があれば、町内会の活動をしている程度。
- ・身体不自由のため参加できない。
- ・（本人または家族が）病気のため参加できない。
- ・組織がないため何にも参加していません。
- ・若いので参加するものがない。
- ・最高齢なので、参加したくない。

問 1 1 あなたは地域での支え合いを強めるために必要なことは何だと考えますか。

- ・「困ったときはお互いさま」という気持ちを持って、必要なときは支え合う。
- ・ 1. まず本音の話し合い、 2. 実行するための資金力、 3. 実行するための人力と時間、 4. 参加者の心と本気度がなくては支えられない。何事も。
- ・ 1人1人のモラル、マナーやルールを守ること。人に迷惑をかけない。
- ・ 1人はみんなのために、みんなは1人のために頑張る事。
- ・ 1人暮らしの方を訪ね話し相手になってやりたいと思うが、自分も忙しく思うようにいかない。
- ・ 3. 1 1の東日本大震災後、皆は度々の地震に震えている。まさかの時は何時でも来る。台風、雷等、大洪水もあり。少子高齢化もこの市に直面しています。互いに支え合い、励まし合い、助けあってこそその市民の生活です。この命の重さを、市長、市政、市職員の方々は、安全で暮らせる事を心に、一早くその対処できるようにお願いします。市民の人々は皆ビクビクしています。各地区で避難場所（高い建物を増して下さる事を望みます。）他の市町村は復興復旧が進んでいるし、不満多数です。
- ・ あいさつから顔を知る事。せめて隣に住んでいる人とは顔見知りになっておく。
- ・ あいさつや立ち話や茶飲み会での話し合い
- ・ お金
- ・ お互いに協力し助け合う事。思いやり、まごころ。
- ・ コミュニティの形成、充実。（震災時には大切な命が救える手だてだった）
- ・ これからの社会生活は地域での支え合いが大切な時代になると思います。まずは代表者を決め、連絡経路の明確化が必要と思う。しっかりした仕組が大切。
- ・ ご近所の方が来客した際に地域の種々な話を聞かされ、必要なことは参考にしている。
- ・ ご近所付き合いや、地域での活動に積極的に参加する事
- ・ センターや集会所は、1回ずつ届け出を出すのではなく、いつもお茶のみの中話し合いができるような、誰でも行けるような場所に。
- ・ どういう支え合いが有るのかすらわからずに非常に困っています。情報を市報や何か保育所等で教えて欲しい。日々大変で今日を生きるだけで必死の人はどうすればいいのでしょうか？
- ・ どの地域でも一人暮らしが多い今日この頃、知らないことも多いので一か月に一度でもいいから顔を出してくれる福祉関係の人がいるとありがたい。
- ・ 一人ひとりのコミュニケーション力だと思います。
- ・ みんなが集まれる場が必要。
- ・ むずかしい事のような気がします。みんなが同じ考えではなく、かわりをもたたくない人もいるので、同じことをするのはできないと思いますが、周りの人に関心を持つことですかね。
- ・ 名誉だけの委員はやめて気軽にあえる人、ケイサツ。
- ・ やっとボチボチ家が建ちはじめ、町内会のスタイルがまだまだの状態。
- ・ やりたくない人、出来る人がやれば良い事で押しつけることはよくない。窓口を決めて相談できるようにする。
- ・ リーダーシップのある行政区長さんが必要（町内のことを把握している方）。独居老人や被災住民等を心掛ける人が必要。
- ・ リーダーになる人はえらぶらないで下さい。
- ・ リーダー及びサポーターの積極的な声掛け（書類の回覧だけでなく）
- ・ 一人ひとりの自覚が必要。地域性もあるので意識を変えていくのは難しい。
- ・ 一人暮らしの高齢者を把握し、見回りや声掛けをする。不審者対策としてボランティアでの巡回、パトロールを増やす。
- ・ 一人暮らしの高齢者宅へ定期的な訪問、声掛け、コミュニケーションの活発化。
- ・ 一番大切なことは、隣近所との仲良く笑顔を持つての付き合い
- ・ 何事があっても声掛けが一番に大切だと思います。
- ・ 会う機会を多くすること。
- ・ 一言でも多く会話をすること。
- ・ 会話集会（話題にもよりけり）。みんなと話し合いをすること。
- ・ 回覧板
- ・ みんなが平等に何でも話し合えること。
- ・ 各自ができる範囲で協力すること
- ・ 顔の見える環境づくり。顔を合わせる場、回数を増やすこと。
- ・ 企業誘致

- ・協力体制を組織化する
- ・強制ではなく自主的な集まりで活動。
- ・教育、文化、福祉が充実した町づくり。
- ・郷土愛の心。地域行事に参加する。
- ・近すぎず遠すぎず。
- ・干渉しない関係。昔と違って必ずしも近所づきあいを重要視していない人々もいる。
- ・互いにある程度間をあけたおもいやり。
- ・近所とのお付き合いでお互い助け合っていくことが大事で必要だと思う。現代からすれば昔ながらのやり方など古くさいと思うかもしれないが、震災になってからこそ大切なことなのだと思う。
- ・近所に新しく家を建て、引っ越してきても個人情報優先しているためか住人の名前等は全く知らないことが多いので、あったらまずあいさつして地域の支え合いにつながられたら良いと思います。
- ・近所の人の変化に気が付くような目線であること。声がけをする、干渉しすぎずおせっかいと思われぬ程度。
- ・近所付き合いを深める。また、支え合うには困っている人を知ることが大事なので情報がほしい。
- ・区長（町内会長）に希望を出しても全く取り入れてくれない。区民の不満が積み重なるばかりです。区のトップは全てに目を向けてほしい。
- ・健康づくり、私にできるとすればラジオ体操くらいです。
- ・現在は災害以降の活動（町内会）は、殆どの交流が中止の状況であり、今後の計画も進んでいないようで、もっと交流を深めていかなければならないと思う。
- ・言葉掛けを大事にして欲しい。声掛けはあまり効果がないと思う。
- ・個々人の心の余裕と思いやり。リーダーの人格、資質。
- ・個人のプライバシー問題等があり強制することができないので行政サイドで地域住民が参加できる場やイベント交流をしてもらったほうが良い。
- ・個別に声掛けして誘うことが必要だと思います。
- ・交流の機会を増やす。私の住んでいる所はお年寄が多いため、集まりやすい場所をつくってもらえるとよいと思う。
- ・行政機関に於いて地域に欠けるものがある場合、それを指摘して地域住民に考えさせる。
- ・行政区が大きい（広い）ため、小さなコミュニティでの話し合いは少ない。班など小さい班の集まりがあるとよいと思う。
- ・今は人の出入りが活発なので仲良くなる間がない。
- ・今は無理だと思う。支え合いだとか言っている時代ではない。皆自分の生活で精一杯です。助けてあげても、おせっかい、ありがた迷惑と言われてしまいます…。悲しい…。
- ・今月、初めて民生委員が来ましたが、みなし仮設で人とのふれあいが少ないので地域で集まる場があると嬉しいです。
- ・災害時においてお互いの地域で協力し合う心がけが必要。
- ・参加していないのでおこがましいのですが、地域にとけこみ連絡しあえる仲である事。
- ・子どもが小さいうちは知り合いも多かったが、独立してしまうとなかなか会う機会もない。
- ・子どもの時からの教育が必要。子どもの時からの大人との対話。
- ・子どもの通園や通学やゴミ出し等、朝夕とご近所の方とお会いする時がありますが、目が合ってもこちらから挨拶しても知らないふりをする大人が沢山います。近所であるなら、挨拶はとても大事な事だと思います。挨拶する事からちょっとした会話につながり、もしもの時お互たすけあえたり出来ると思います。
- ・市、地域が協力して支え合いを必要としている人を訪問する。
- ・市担当（者）等の更なる啓蒙、広報活動。市役所の努力。
- ・思いやりの気持ち・組織があっても必要と感じなければその組織は成立していないと同じです。
- ・支え合いが弱まっていると感じない。支え合いが弱まっていると感じているのか。それは社会が高齢化しているので止むを得ないのでは。
- ・私の住む地域は核家族や、老人の一人暮らしが多いので子ども会、町内会、老人クラブそれぞれの活動ではなく、縦割的な地域の活動が必要だと思います。
- ・自治会、町内会等地域団体の活動を質、量面で充実させること。そのために他地域団体等との情報交流を活発化させること。（成功事例や参考事例を情報共有する。）
- ・自主防災活動
- ・自分がたずさわっている文化団体（連合体）での広い活動。
- ・自分の（広くても良い）まわり、地域の清掃

- ・自分の住んで居る地域を良く知り、和を持って助け合うこと。
- ・社会人は、仕事におわれて、自由な時間が少ないので、地域での支え合いに興味がある人を集めて、意見を出し合えば必要な事が、見えてくるとおもいます。
- ・蛇田地区は仮設住宅や区画整備等、環境が変わってしまった。ありきたりの付き合いはむずかしいと思う。つかずはなれずテキトーな距離が必要ではないだろうか。
- ・若い人が進んで参加できる行事やイベントを増やす。若い人達が地域での活動に参加し、つながりを深める。
- ・住んでいる地域の方々の名前、顔、連絡先等をまとめた一覧表みたいな物を作り、近所の人の顔が分からないという状態を作らないようにする。地域で大きく括ってしまうと規模が大きすぎるのでもっと小規模（番地など）のコミュニティを作り各人同士付き合いをしやすいとする。
- ・住民の自発的な結束は難しい。集まるための枠組（半強制的であっても）は行政に用意してもらわないと支え合うことすらできないと思う。
- ・住民の把握とコミュニケーション、支援者同士の話し合い取り決め。
- ・住民自治の組織の役割が大きすぎる（住民の増加などにより）。これを適切な役割へと再編することにより、自発的な参加をうながす必要がある。
- ・諸活動に参加するよう誘い合って参加し親しみを持つ事も第一。親近感を持つこと。
- ・昭和（2年）生まれの私にとって、昭和4年以降に生まれた方々には自己中心が多く、口は出すが、手を出さぬ人が多く、改めねば。
- ・常に周りとの付き合いを大事にする。高齢者が一人暮らしする家の見守り等。
- ・情報の共有。情報を流すようにしたほうがいいと思う（回覧版など）
- ・信頼関係の構築
- ・身近なコミュニティの実態を知る（顔を合わせる場が必要）。ただ、いろいろな条件で参加しやすい場の設定は難しいと考える。
- ・震災により、人口がかなり内陸にふえ、大きくなりすぎた行政の区域を細かく分け、より親密になるようにしたい。新しく越された方の紹介の場などをもうける。
- ・震災の経験を生かして、老人、子どもたちが住みやすい町を目標とする。
- ・震災後、近隣に家も町もないのでわからない。
- ・震災後は、仮設・漁業者たちには情報があるようで、家が残った人たちは、情報は広報だけ。色々な情報を地域内全体に。
- ・震災前は地域のまとまりが良かった様に感じていましたが、今は、それぞれが気持ちの余裕が見られなく感じられます。地域のイベント等に足を運ぶことにより、顔を知り、話す事も増え、交流出来ると思います。
- ・人の陰口を言わず助け合う。
- ・声がけ、あいさつ。特に1人暮らしの老人さんへの声がけ。（よく聞けば、さびしいと思う事が多々あるようだ。）
- ・早く、区画整理の工事が始まって、町内の人が住める状態にしてほしい。
- ・他者に対する関心を持たせるためのアイデア
- ・他人のことをいろいろ言わないこと。（無理でしょう）
- ・他人の詮索はやめて他から移り住んで来た方を受け入れること。
- ・他人事と思わないこと。
- ・大人も子どもも道徳について話し合える環境。
- ・誰でも気軽に行けるふれあいの場があれば良い。人と接する機会があれば、何か手助け出来る事があるかもしれない。
- ・地域だけではなく、市（行政）、学校、地域と三身一体となった進め方が大事と思う。
- ・地域での活動、行事などで、顔を合わせる機会を増やす。イベントへの参加への啓蒙活動を行う。
- ・地域で行われる各種イベント等に参加し、交流を深めることだと思うが、被災し転居した者であるため参加しにくい。
- ・地域での支え合いの必要性がわからない。
- ・地域となると大きすぎてわからない。
- ・地域の人同士のコミュニケーションを図ること。そのためには、誰もが必要な、あるいは参加したいと思えるようなきっかけ（場）をつくること。
- ・地域の中でいいじめや悪口を言わない。学校だけでなく、どの年代も実是一緒。
- ・地域の中で多くの人たちと声を掛け合い、世間のことを知り助け合うよう心掛けて日常生活を安心して過ごすこと。
- ・地域住民の民生委員の方が何回も顔を出してくれる事。
- ・地域住民本位のまちづくり。
- ・地域全体での子育て教育参加。

- ・町内での話し合いに気軽に入れること。役員等、身近な方々の中に入れず皆が気軽に話し、支え合うことが大切。（小さなことから）
- ・町内で困り事があれば、近所の方々にお話ししてみて、それでも解決しないときは行政委員さんに相談するようにしています、支え合いは協力と思いやりだと思います。
- ・町内の行事、清掃等にみんながもう少し積極的に参加すること。町内にはいろいろな委員さんがいますが、活動や存在があまり知られていない気がします。
- ・町内会での活動、イベントに積極的に参加する事がお互いのコミュニケーションを取るのに大切な事だと思う。
- ・町内会のありかたを考えていくしかないでしょう。
- ・町内会の活動その他、集まりの場でほかの人と会話などを通して親しくなり、協力していくことの大切さなどを解りあい強めていく。
- ・町内会の活動を活発にして、住んでいる人たちの顔が見えるようにすることから始められたらと思う。
- ・町内会の小班での親睦会などがあれば近所の方と協力体制もとりやすいと思う。町内会行事だけでは人数が多くどこに住んでいるかもわかりにくい。
- ・町内会の中で顔の知らない人がいないような付き合い。
- ・町内会は世帯数が多いので、少なくしてほしい。（震災時は大変不満なことが多かった。）
- ・町内会や班単位で、住民が一同に会する機会をつくること。それを継続して、人間関係を少しずつ密にしていくことから始めるしかない。
- ・町内会活動に参加したり、例えば犬の散歩でお互いに会話を交えたり、サークル活動に参加したり、声を掛け合うこと。
- ・町内会行事に高齢者、障害者も参加出来る活動が必要かと思う。（例えば、雑談、軽い体操）
- ・町内会単位でのサークル（ボランティア）、災害時対策（予防）、活動を学生も含めて行う。学生時代から町単位のサークルがあると良いと思う。→生涯あたりまえのサークル活動につなげていく。
- ・町内会長がしっかりしてほしい
- ・町内会費を出しているが誰だかわからない。何に使うのかの内容もわからない、町内会費を払うのが大変（年金暮らし）。
- ・長くこの地の住んでいた人達の中に入ることは大変です。今は何も考えられません。
- ・長期間住み続け、若い時から集まりなどに参加し、絆を深めて行く事が必要だと思います。今住んでいる所は1年位にはなりますが、立ち話だけです。若い時に付き合い合った仲間は宝です。今でも時々茶のみしたり心が和みます。ストレス解消に助かります。
- ・定期的に、まずはお茶飲み会のようなものから会を設ける。
- ・同世代がもう少し多くいると、支え合いする事ができる。
- ・道路の整備（歩道、街灯）
- ・年を老いた者が多いので協力も支えも大変です。もっと介入してくれる公的な方、ボランティアが必要と思う。
- ・半年に一度でも町内で集会などを作れば、ご近所と話せて関わりができて良いと思います。（集会で何をするかは思いつきませんが）
- ・必要以上のおせっかいはやめてほしい。信頼が保てればお互いに支え合いの方向に動いていけると思う。
- ・幅広い世代（年代）の交流
- ・文化・教養・スポーツ等に参加し交流を強める。
- ・民生委員、行政委員（町内会長）、班長、福祉協議委員等の情報の共有
- ・民生委員、児童委員の活動を充実させるためにも、即時に動ける人をお願いしたいと思います。
- ・民生委員の働きが需要だと思う。地域住民にとって行政の中でもっとも身近かな存在だと思うから…。現在、私は、自宅にて介護をしている。私の地区の民生委員は一度も尋ねてきてくれたことがない。もう少し声かけのような動きがあってもよいのではないかと。そうすることで「支えられている」という意識がもてると思う。
- ・無理に自治体や役場側が地域活動をやってもらおうと、強制しない方が良いと考える。
- ・老人クラブ、消防婦人部が近年解散した。一部住民の活動過多が原因としてあります。強制ではなく、ほどほどの活動を長く続ける事が肝要と思われる。町内役員等は70才以下としたい行政、民生委員は体調が良ければ75才位まで。行政は机の上でなくもっと現場へ。職員不足と感じる。

問13 あなたは、地域で支え合うまちづくりに関心がありますか（地域包括ケア）

すでに地域の支え合いに参加している。（具体的に____）

- ・NPOを通じて。
- ・グループホーム運営委員
- ・デイサービス業務に従事
- ・ふきのとう創立以来ボランティア
- ・夏祭りなど、若者の背中をおす
- ・介護、ショートステイ
- ・旧民生委員
- ・居場所作り等の会
- ・近くに住む一人暮らしの方々に声掛する様に心掛けている
- ・行政委員として広報配布時声掛け、全3戸
- ・高齢者のリハビリのお世話
- ・自治システム活動
- ・自主防災会
- ・石巻市武道協議会
- ・地域ぐるみ活動
- ・町内で月に一度のお茶
- ・町内会活動
- ・保健推進員をしている
- ・老人クラブの活動

その他

- ・このような活動かつ身近で見える形で展開されていないので判断できない。
- ・できないだろう。
- ・どちらとも言えない、わからない。
- ・みなし仮設での生活で、定住先を決めていないため、現時点では関心はない。
- ・関心はあるが、参加する余裕がない
- ・気持はあっても、身体が動かない。
- ・金がかかりすぎるかも。
- ・健康に不安があるため。
- ・高齢で自分の事で精一杯。
- ・今は病人がいるので無理です。
- ・参加した場合、人間関係が心配。
- ・仕事で時間がない。
- ・自分の体だけで、人様に迷惑をかけたくない。
- ・蛇田に居住して日が浅いので、住民すらまだわからない。
- ・生活するのが精一杯で他の事を考える余裕がない。
- ・早く故郷へ帰り、微力ながら地域作りに参加したい。

3 家族と子育てについて

問14 大切と思う人間関係やつながりとして、重要だと思うもの

- ・いつもお世話になっている人
- ・この地に住む前の心温かな人。
- ・その時々のコミュニティで関わる人
- ・ママ友
- ・親友、気の合う友人、近くの友人（会うことの多い方…）、地元の友人、古くからの友人、就職先で知り合った友人、趣味や学校以外の友人、配偶者の友人
- ・価値感を共有できる人が最低条件だろう。
- ・子ども、子どもの学校での友人、子どもを通しての親子つきあい
- ・私に関わって下さる全ての人々が重要と思っています。
- ・生活していく上で関わるすべての人。
- ・所属団体員。
- ・他人は困った時薄情である。
- ・大切に思う人に区別や優先はない。
- ・特別にこのつながり、というのはないが、その度に関わった方で年令問わずつながっていく方々。例えば恩師など。
- ・付き合いがないので（わからない）。

問15 家族の役割として重要なことと思うもの

- ・人間の利点を伸ばし、欠点を補う。
- ・昨年骨折し、夫の献身的な支えが良かった。
- ・選択肢1～11全部が重要だと思う。
- ・家族のためにできる事はやる。
- ・今は個人で生きる時代だと思うので、家族単位が大切だと考えるのは古いと思う。家族といっても個人の人生があるので、個人の人生を強く生きるために、お互いに支えあって尊重し合い生活をしていきたい。※存在しない家族が理想です。

問16 理想の家族の住まい方と思うもの

- ・一家に2代、3代の同居も良いと思う。
- ・夫婦世帯で近くに子どもがいる。
- ・夫婦のみで同じ敷地内に長男夫婦・孫がいればいい。
- ・夫婦のみで、車で2時間程の所に子ども、孫達がいる。
- ・3世代以上の同居
- ・親と子どもの世帯で、夫の親と妻の親と同居が良いと思う。
- ・親と子どもの世帯で、近くに夫、妻の親がいる。
- ・お互いに健康に気遣いし、優しく労わる家族。
- ・基本的に「親と子どもの世帯」だが、行政が「里親の家族」と表する点に異和感がある。世間の多様化する考え方に、行政が追いついていない。
- ・経済的等、互いに助けあえる家族
- ・生活の心配が無く助け合える家族
- ・健康で自立できれば、色々対応できると思う。
- ・子が18才までは「親と子どもの世帯」、その後は「夫婦のみの二人暮らし」
- ・自然の成り行きの状態
- ・辛苦を味わった人々が、人格を尊重し合い次世代の子孫の為にその後ろ姿を見せて、やがて静かに怯ぬ時まで共に暮らせるように。
- ・それぞれの家族で事情があるので、特になし。
- ・どのような組み合わせでも、与えられる家族と暮らす。
- ・皆同じでなくていい。個々の考えでいいと思う。人によって理想は異なる。
- ・理想を言っても個々の性格、立場等々があると思うので何とも言えないし私は現状が理想。

問17 若い世代で未婚・晩婚が増えています。その理由として思うもの

- ・こだわりが少なくなっている。(昔とくらべて)
- ・セクハラが問題視され、かつてのように地域や職場で結婚の働きかけをする人がいなくなった。
- ・マスコミが悪い。外見重視の番組とか。
- ・企業が正社員採用を拒む為、結婚したくともできない、と言う男性の話をよく耳にします。パート、バイトから正社員にさせない企業に問題があると感じます。
- ・給料をひとりじめにしたい。
- ・結婚してもお金で苦勞して離婚してしまう。
- ・結婚するにもそれなりの収入がある仕事がない、少ない。(特に石巻は！！)
- ・結婚の要件が満たされていない。
- ・国や世間が事実婚を認めないから。夫婦別性が認められていないから。(地方では特に)家督、家族制度が残りしばられたくない若者が増えている。
- ・子どもを育てにくい。
- ・子育てのための仕事フォロー。
- ・私は仕事を大切に思う時間、友人と遊ぶ時間を長くとりすぎ、結婚を考える時期が遅くなった。去年～今～活動したいと思えてきて、婚活を行っているところ。今は、街コンや、婚活パーティーが楽しいと思えるようになってきています。
- ・自分たちの世代は、仕事で必死のうちに出産年齢も過ぎたので今更苦勞したくない(介護とか)
- ・女の欲張り。
- ・女性が経済的自由さを失いたくない。
- ・女性の都会への流出。
- ・親、姉妹の事でいっぱい他事を考える余裕がなかった。
- ・親と同居などで結婚に対する意識がうすい。(楽な生活、親の援助)
- ・親離れ、子離れできていない。
- ・人間全体が幼児化している。
- ・相手の家族との関係がわずらわしい。
- ・若者達のわがままだと思ふ。つまり考えが幼いから。
- ・相手を尊重する気持ちがない。自分勝手。
- ・男女、特に女性の権利意識が少々強いから。
- ・長男、長女又は一人っ子で親をみないといけないから。
- ・独身でいる人の気持ちがわからない。
- ・内心結婚願望あるのに素直でない。
- ・配偶者を支える資力と力がない。

問18 結婚を決心するためには、どの状況が良いと思いますか

- ・その相手と一生いろんな面で、そいとげられるかどうか。
- ・周囲の協力。
- ・結婚することに魅力を感じるように。(結婚=女性の負担、がまんなどのマイナスのイメージ)
- ・結婚生活を維持できる要件が揃うこと。
- ・二人の愛情。
- ・女性が現実的な妥協を受け入れること。
- ・子孫を残すことを第一に考えるべきだ。一人でこの世を終えるのは残念だ。
- ・人生のドラマをつくりたい。
- ・互いを信頼し、互いを必要としていれば。
- ・仕事、というより、本人のやりたい夢？が少し本人の中でみたされた頃？好きになる異性があらわれれば、考える機会もふえるので、職場以外で出会う機会が多ければその分結婚を考えるのだろう、と思う。
- ・お互いに支え合える力が身についた時。
- ・基本的に結婚するもしないも個人の自由なので状況の問題でなないと思う。籍を入れないカップルは多い。家に(親せき)しばられたくない。特に女性は多い。

問19 子どもを持つ場合の条件として必要と思うもの

- ・経済的に余裕があること。結婚してもそれなりの収入が無ければ子どもも作れません。
- ・子どもを心から欲しいと思っていること。
- ・子どもができない夫婦に対して、不妊治療の幅広い助成の充実。
- ・自分自身が子どもを育てる上で、モラルや妻としての役割をはたせるかどうか。
- ・専業主婦でいられること。女性に働けと勤めるのは良くない。
- ・特に未満児の受け入れをもっと手厚くしてほしい。
- ・夫の安定した収入。
- ・本人次第。
- ・グループホームを建てること。

問20 家庭での育児や家事は、誰の役割と思いますか

- ・共働きだったら「夫も妻も同様に行う」、妻が主婦だったら「基本的に妻の役割」。
- ・家族、親せき全員の役割。
- ・個々の家族で話し合って決めるべき。
- ・お互いに思い合って出来るように、夫婦両方で。
- ・地域的に、男は海に出るので「妻の役割」を選びました。
- ・ヘルパー。(共働き)
- ・母親が子どものある年齢(高校生)まで専業として子育てをする。子どもがある年齢までの間は国又は職場が経済面を保証する。(基本的に母親が家庭を守る。)
- ・家事は出来る方がすればいいが、育児は夫も妻も一緒に行うもの。
- ・お互いに夫婦での役割を自然と決める。協力第一。

問21 育児や家事で、夫も行った方が良いと思うもの

- ・選択肢全部。男女区別をなくすべき。
- ・全てを分担できるといいと思います。
- ・毎日ではなくていいが、全部。
- ・これと決めつけしないで、必要に応じて協力する。
- ・その時々で出来る方がやれば良い。
- ・育児、家事の担当(分担)について夫婦で話し合っておき、確認し合ったことを実行すればよい。
- ・子どもが小さいうちは育児にできるだけ協力してほしい。
- ・子どもの教育(道徳面のこと)
- ・子どもの行事の分担。3人いると大変。
- ・全体的にどれという事無く協力することでしょう。働いている妻と専業主婦ではいろいろな点が異なります。
- ・地域的に海で働く男の背中を見せたいのでそれで良い。
- ・程々の家事といざと言う時の頼もしさを持ってほしい。(適切な判断力等)
- ・夫の仕事内容によって家事が違って来る。
- ・夫も行った方が良いのではなく、補うべき!
- ・片付けやゴミ出しを手伝ってほしい。
- ・母親がたいへんな時にサポートする程度。
- ・子どもが困難に立った時は必ず味方になる。
- ・よく笑う事、家の中を明るくする事など
- ・なによりも「ありがとう」の気持ちが大切。
- ・何もしなくても良いので家の事に口を出してほしくない。

問24 地域で子育てを支えるために必要だと思うもの

- ・現代は、他人にしかられる事をきらうので何とも言い難い。
- ・ボーイスカウトに入れ、非常に良かった。
- ・中高一貫校があるといい。

4 環境問題について

問 2 7 関心のある環境問題等について

- ・シカの数減らしてください。昼に駆除すれば良いと思う。
- ・トラックの排気ガス、道路通過のほこり。
- ・放射線による自然への影響。
- ・原発問題、放射能問題（地震が頻繁におきやすいのに女川原発を稼働させるのはおかしい。）
- ・女川原発再稼働絶対反対。
- ・原発が3km以内にあること。
- ・今までよりも自然環境を良くする努力をしたいと思う。
- ・最近、住居周辺でのケムシやムカデの大量発生に悩まされた。
- ・水質汚染による魚介類の減少。
- ・東日本大震災で田畑がつぶされたりしていることなど。
- ・圃場整備による、地下パイプでの灌漑、稲、豆の交替作付で生物の絶滅。
- ・有害鳥獣増加（カラス、ハクビシン）
- ・隣国からの大気汚染。

問 2 9 どのようなことが環境保全活動の障害となっていますか

- ・18年後半～19年の環境に戻す。環境を悪化させた年月分をかけて作りかえていくべき。
- ・いろいろな角度からわかりやすい情報があれば良いと思う。例えば味噌汁一杯捨てたら浄化するのにこれくらいかかるとか、堆肥の作り方とか、アドバイスがあれば良い。
- ・インターネットによる告知は不可。
- ・ゴミ不法投棄の投棄者への対応の遅れで被害者側が不利益を被る。
- ・トラックの排気ガス、都内は排ガス規制があるのに、県内は規制もなく、復興が先で、トラックの規制はなんでもありですか。
- ・みんなで意識改革すべきである。
- ・家庭教育の現場でも教え実践していくことが大事！！
- ・個人単位がもちろん大切だが、大手企業や公的立場（政府も含めて。進んで活動してもらいたいです。）の活動を大きく何度も取りあげて、個人に意識づけることが大切だと思う。
- ・行政が積極的でない。市民への啓蒙不足。
- ・高齢の為自分の事で精一杯である。
- ・情報が多すぎて、何が正しいのかが分からない。
- ・人間の欲が環境を破壊しつづける。
- ・生活者の意識。
- ・誰がいつどこでどのような活動をしているかがわからない。
- ・中国製品が多い。
- ・不法投棄が多い所がいくつか見られる。防犯カメラの設置など出来ぬものか？
- ・行政に於いても現地調査、意見を聴くことが必要。

5 ホーム・エネルギー・マネジメントシステムの利用について

問34 HEMSで利用してみたい機能はありますか

- ・経済的に余裕のある家庭の話のような気がします。
- ・使用したいが電力が足りない。
- ・普段から省エネを実施していれば必要なし。製品化することが資源消費になっている。
- ・利用する料金と節電する料金の差がわからない。
- ・自分の力量では活用出来ない。
- ・火事とかの心配がある。
- ・システムが未熟なので時期尚早。
- ・いずれにしても電気の消費に変わらない。
- ・原子力に頼らない生活が望ましい。
- ・自分で気をつけてマメに注意している。
- ・老人にはむずかしい問題である。
- ・老人世帯はむずかしことがわからない。そのため何か間違いが起きそうでいやです。
- ・最高齢のため電気の操作が無理です。
- ・震災後は、主電源などをこま目に抜いたりして無駄を無くす様に心掛けている。エアコンも利用していない（サンシェード等を利用して暑さを少なくして）

問35 エネルギー情報を利用したサービスや、HEMSの画面にあったら便利な情報はありますか

- ・エネルギー管理士の資格保有。今のところ自己管理できる。
- ・パソコンやスマートフォンを利用していない。
- ・お天気
- ・1人暮らしがこの地でも多くなりましたと聞く。一日が無事かを仰ぎ見れば黄色のハンカチを窓に出しとく、それを見守り隊が確認出来るシステムを望む。
- ・両親が日中家にいる時の様子を確認。
- ・高齢者は一人暮らしでパソコン等扱えない。持っていない。
- ・説明会開催が必要。

問36 HEMSをご自宅に設置してみたい、もしくは使ってみたいと思いますか

- ・HEMS自体電気を消費するし、ネットワークそのものも機能しなくなることもありうる。
- ・あまり関りたく無い。だます人も出て来るのでは。
- ・自分で節電しているから。
- ・借家のためできない。
- ・パソコンがないから。
- ・むずかしそう。
- ・もっと自分で確認してから。
- ・よくわからない。
- ・家にいる時間が少ない。
- ・現在家族と生活しているので必要ない。
- ・現状では信頼できるシステムとは思えない情報漏えいの心配がある。
- ・高齢者だから必要ない。
- ・今のところ全て自己管理出来る。
- ・出来る限り複雑でない生活を志し、自己管理出来る生活をしたい故。
- ・正しく使えるかどうか心配。
- ・設置、設備に経費がかかる。
- ・費用対効果を考えるとメリットがあまりないと思うから。
- ・必要が無い。今まで通りでよい。
- ・面倒だ。

6 広報事業について

問38 「市報いしのまき」は読みやすいですか

- ・生活の道標べと地域の情報が得られる。
- ・2回発行しているが内容が充実していない、レイアウトが良くない。
- ・A4サイズの方が読み易い。
- ・アンケートの集計の結果や報告だけで、市の姿勢が感じられない。
- ・あまり私たちに用のないことばかり書かれている。
- ・カラーである必要を感じない。
- ・カラーに戻ったのは良いが情報量が少ない。写真が多ければ良いとは思わない。
- ・情報が少ない。
- ・話題と内容が広域的で情報が多すぎる。合併前のような地区別広報の方がよい。
- ・たて書き。行事案内の区分をわかりやすくしてほしい。
- ・もっと見やすくしてほしい。
- ・ページ数が足りない。
- ・めんどくさい。
- ・わかりにくい。
- ・興味のある記事のみ読む。
- ・形式的すぎる。
- ・見出しに工夫が必要。
- ・「市報いしのまき」に慣れてきた。
- ・詳細な説明はいらない。小さい字、薄い字は読みにくい。
- ・記事の配分が理解出来ない。
- ・写真が多すぎる。
- ・内容が役割を果たしていないし、つまらない。
- ・表現が難しく、判断しにくいときがある。興味・関心もてるような「しかけ」がない。
- ・東松島市報の方が内容など良かったです。

問39 「ほとんど読まない」・「読んだことがない」その理由はなんですか

- ・月に2回は必要ない。より身近な情報を知りたいと望むため、合併前の地区ごとの新聞に戻したほうが積極的に見ると思う。
- ・見るところがない。
- ・現在のタブロイド版は保存しにくい。以前のようにA4版にしてほしい。
- ・市報を市民が待つ様な内容にしてほしい。
- ・自分に必要な情報が無い。町内会の回覧でいい。
- ・必ず見てはいるけれど視力が弱いので読むのは必要な所だけ。すぐ目が疲れ、字が乱れて判読が難しい。
- ・有れば読む程度。
- ・ただ文字が並んでいるだけに感じる。感情がない。もっと身近な記事や写真を載せてほしい。